

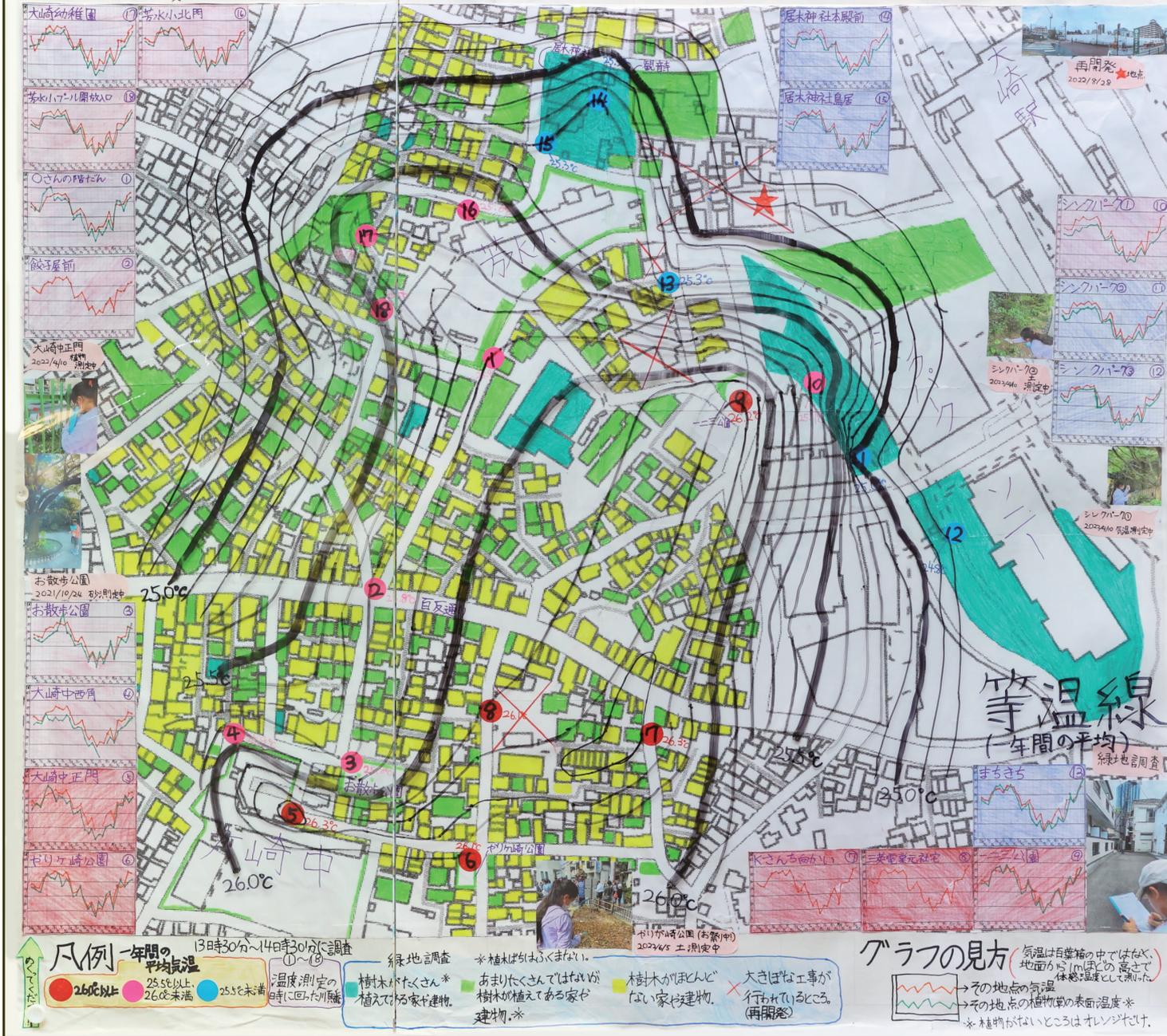
# 児童の地図作品の紹介

今号は、第32回私たちの身のまわりの環境  
岩崎 渚さんの作品を紹介します。

## 緑をふやそう!

～私たちにできること～

品川区立葦水小学校  
4年 岩崎 渚



## 私たちの身のまわりの環境地図作品展について

「私たちの身のまわりの環境地図作品展」は1991年に旭川市で生まれた国際的な環境地図作品展で、今年第33回目を迎えます。日本全国はもとより世界のどの国や地域の児童生徒（6歳～18歳）でも応募できます。作品の内容は「身のまわりの環境について自分で調査したこと、観察したこと、考えたことを地図に

したもの」です。作品のテーマは自分で自由に決める「自由テーマ」と毎年設定される「指定テーマ」から選べます。今年の指定テーマは「身のまわりの『優しさ(kindness)』」です。毎年国土地理院長賞、北海道知事賞など18種類40点ほどの優秀賞、30点ほどの優良賞、30点ほどの努力賞の計約100点の作品が、10月下旬に旭川市科学館（サイパル）で展示されます。（環境地図教育研究会）



**調べた理由:** 去年気温などを調べた時に植物がアスファルトなど比べて低いのをき間と感じました。そこで、緑の多い所と少ない所の気温などを一年間測りました。

**調べた日:** 緑地調査 → 2022年 8/6  
 温度測定 → 2021年 6/20, 27, 7/3, 10, 18, 24, 31, 8/6, 11, 26, 9/13, 26, 9/27, 10/9, 24, 12/5, 12, 27, 2022年 2/19, 3/1, 27, 3/13, 29, 4/10, 5/22, 6/5, 22, 28

**調べた方法:** レーザ付放射温度計とデジタル風速温度計を使って、アスファルトや植物の気温などを一年間測りました。また、軒下の木の量を3つに分けました。

**結果と考察**

	夏の気温	冬の気温	植物(草)の表面温度	気温と植物の差	周りの様子
①②③④⑤	低	低	気温 > 植物	小	木ヅルパーク 居村神社
⑥⑦⑧⑨⑩	高	低	夏冬 気温 < 植物	大	近くに森あり
⑪⑫⑬⑭⑮	高	高	夏冬 気温 > 植物	小	近くに森なし

表から分かるように、森の中では夏は涼しく、冬は冬らしく、きちんと下がること分かりました。でも森が近くにあっても、夏は気温が高くなること、森が近くになれば、冬でも気温が下がりにくいことが分かりました。

また⑤と⑦の一年の平均気温が一番高いところで、それは木がほとんどないからだと思います。一番高いところは26.3℃、一番低いところは24.8℃で、1.5℃ちがいます。森の中と近くに森がないところではこんなにちがうことに私はおどろきました。そして、植物(草)の表面温度を調べたら、草だけでは気温は下がらないことが分かりました。

だから、個人の家では、少しでも「木」を、やし、大きな開発をしているところでは、シンクパークのように、たくさん緑をふやしてほしいと思います。



○ 作成者 東京都品川区立芳水小学校 4年 岩崎 渚

**緑をふやそう! ~私たちにできること~**

3年生で、『まち中のすずしい場所さがし』という地図を作りました。学校で習った一番暑い時間の14時から1時間、気温や植物の表面温度などを夏に9日間調べた時に、なぜ植物の表面温度は気温と比べてこんなにも低いのかと疑問に思いました。また、他の季節はどうかと思い、今度は1年間調べてみました。

工夫したことは、3年生で見た地図展の入賞作品を見習い、ビニールを用いて等温線をかいたこと、苦労したことは、18地点を28回調べたことです。冬は14時半には寒くなるので調査時間を30分早めました。また、地図が見やすいようにグラフを小さくしたのでかくのが大変でした。

地図にまとめてみて、木が少しあるだけでは夏は暑いことや、1年の平均気温の最高地点と最低地点の差が、1.5℃もあることが分かりました。

ここ何年間かで夏の気温は高くなっています。地球温暖化を進めないために必要なのは「木のまとまり」だと思います。だから、私の地図をみて、少しでも『木のまとまり』を増やそう! と思ってくれる人がいたらいいなと思います。(学年は作成時)

● 講評

地球温暖化が世界的な問題になっていますが、気温とその変化や背景を正確に把握するのは容易ではありません。そのような大きな課題に身近な所で地道に取り組んだ労作です。2021年6月～翌年6月までに18の地点で28回も植物の表面温度と地表から1メートルの高さの

気温を観測し、自ら調査して作った緑地分布図の中に落とし込んでいます。このような周到な調査と地図化により、夏は森の中が涼しいこと、樹木が少ない所では気温が高い傾向があること、などが見えてきました。

(環境地図教育研究会長 氷見山幸夫)